



おうみ
映像 
ラボ since 2014
BOOK
vol.3 2016

おうみ映像 ラボ since 2014 BOOK

vol.3 2016

CONTENTS

平成28年度 おうみ映像ラボ 活動報告

滋賀の「くらし・わざ・ちえ」

映像めぐりプロジェクト

3 | ラボ会・見聞会 vol.06

「ぶつつおう なれずし

〜魚のお供えもの〜



5 | 上映会 vol.03

「8ミリフィルム映像上映会 in 彦根・

七曲がりフェスタ」

10 | 「8ミリフィルム発掘プロジェクト」

遠足 vol.03

「東海道五十三次・水口宿

〜甦る水口細工と春を呼ぶ水口囃子」

13 | 永井さんと歩く水口

14 | 上映会場・映像撮影地 マップ

おうみ映像ラボ

おうみ映像ラボは、滋賀県内の伝統行事や生活記録が収められた映像の情報を収集・発信し、上映していく団体です。

滋賀県各地で「見聞会・遠足・上映会」などの企画を行い、古来より引き継がれてきた滋賀の美意識や技術と知恵、地域性・共同体のあり方について再認識する、世代を越えたコミュニティの場を創出しています。

〈ラボ会・見聞会〉

情報収集した映像を持ち寄り、視聴し、見聞を広める公開型の例会です。初見の映像を見ながら情報交換します。

〈遠足〉

映像の撮影地を訪れ、その地で映像を視聴し、地域の方々・映像製作者・地域文化と出会う企画です。

〈上映会〉

参加者を募り、映像を上映し、その映像について語り合う上映会です。

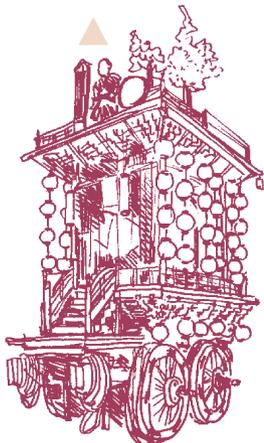
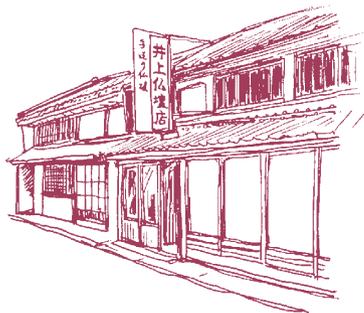
〈メンバー〉

大原歩
長岡野亜
大藤寛子
藤野ひろ美



平成28年度 滋賀県「美の滋賀」創造事業 地域の元氣創造・暮らしアート事業

平成28年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業



【ラボ会・見聞会 Vol.06】 「ごつつおう なれずし」 魚のお供えもの

日 2016年11月23日（水・祝）
会場 滋賀県立琵琶湖博物館 会議室
ゲスト 大久保実香さん（滋賀県立琵琶湖博物館学芸員）
協力 滋賀県立琵琶湖博物館・栗東歴史民俗博物館



なれずしは主に魚を塩と米飯で乳酸発酵させた食品で、滋賀の特産品であるフナずしは塩漬けたニゴロブナをご飯で漬けた「なれずし」の一種です。今回、神様に奉納される「なれずし」の映像など3本を上映しました。会場は7月14日にリニューアルオープンした琵琶湖博物館。学芸員の大久保実香さんに400万年の歴史をもつ古代湖・琵琶湖の成り立ちやニゴロブナの住んでいる水辺の展示などを案内いただきました。映像視聴後、「守山の漁師さん漬け」「栗東の農家さん漬け」「沖島でのメンバー漬け」の3種のフナずしを食べ比べ。お店や家庭ごとに、漬け込む期間や工夫によって、また同じ人でも時期や桶などの違いによって、匂いや発酵具合、味に少しずつ違いがありました。発酵の力が生み出すおいしさの多様性を楽しみました。地元周辺でよく獲れたであろう魚と米どころという恵みに手間と時間をかけ、感謝と祈りと共に神様にお供えされるなれずし。移り変わる生活の中で続けられてきた神事、琵琶湖の存在と恵み、これからのこと…などを感ずることができた、まさに『ごつつおう』ごちそうの時間でした。



大久保実香さんの解説



『湖国伝統の味 ふなずし
家庭でできる飯漬けの
コツ』

制作年不明 / 12分41秒
企画・制作・滋賀県漁業協同組合
連合会・滋賀県農政水産部水産課

漬物桶とポリ袋を使った漬け方の映像。①鮒の鱗や内臓を取り、塩で3カ月以上漬けこむ「塩漬け」②夏に塩漬けた鮒を水で良く洗い、干してから、ご飯と一緒に桶に漬けこむ「本漬け」③4カ月以上発酵させ、できあがり。
保存食として各家庭で漬けられていましたが、近年、材料である琵琶湖の固有種・ニゴロブナの減少や食べる機会が減り、漬ける家庭は減っています。一方、独特かつ絶妙な味は根強い人気があり、発酵食品として注目度も上がっています。タイトルで検索可能な動画サイトあり。



『鯉切り祭り』

2012年制作 / 約40分
制作・守山ヒテオクラブ
制作協力・下新川神社・幸津川町自治会・幸津川町2番組

すし切り祭りのダイジェスト映像。5月4日夜9時頃、太鼓練り（巡行）。各家の玄関に大太鼓が入り込み「ちょこせ、ちょこせ」のかけ声とともに打ち鳴らされます。これが5日午前0時頃と3時頃にも行われ、3時の巡行が終わる頃、御輿番が担ぐ御輿と若衆の担ぐ大太鼓が神社の参道で競り合う「卯の時渡し」となります。5日午後からの「すし切り神事」では若衆2人が古式にのっとり鉄製の長い箸と包丁を使い、無言の中、息を合わせた大きな所作でふなずしを切り分けます。野次の声が賑やか。国選択無形文化財「謙鼓の舞い」等、奉納されます。



『なれずしの漬けこみ・
三輪神社 春の例祭』

制作年不明 / 1時間36分24秒
制作・栗東歴史民俗博物館

栗東市の三輪神社に奉納される、ドジョウのなれずしの映像。前年の9月23日に集落の東組、西組の当番宅で漬けこみ、5月1日に封を開ける「口開け」を行います。四角のご飯・豆腐・まめ・大根・こんにゃく等を各々小皿に盛り、野球ボール大に丸めたドジョウのなれずしとともにお膳に乗せ、神社へ奉納。5月3日は舞の奉納があり、なれずしが参拝者に振る舞われます。ふなずしのように塩漬けたものを飯漬けにするのではなく、「生きたまま」のドジョウに塩をまぶし、「蔘」を混ぜたご飯と、開いたナマズとともに漬けこみます。



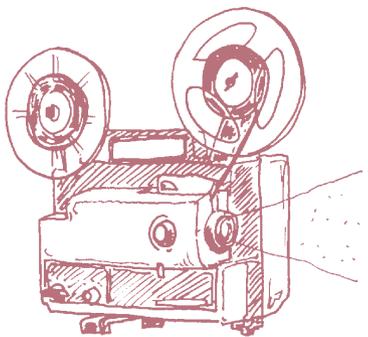
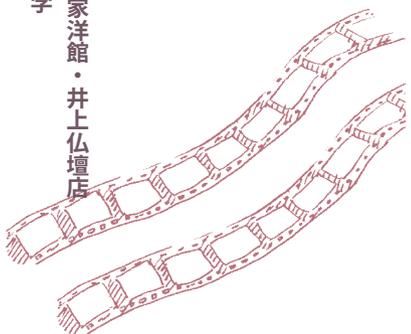
【上映会 Vol.03】

— 8ミリフィルム映像上映会 in 彦根・七曲がりフェスタ

日 2016年10月9日(日)

会場 彦根・七曲がりフェスタ 内 2会場 旧秋口家洋館・井上仏壇店

協力 井上仏壇店・彦根仏壇事業協同組合・滋賀大学



七曲がりは中山道と彦根城下を結ぶ街道として発展し、彦根の伝統工芸である彦根仏壇発祥の地。現在も彦根仏壇七職と呼ばれる職人の工房や仏壇店が立ち並びます。その街並みと伝統工芸を知ってもらおうと、第4回「七曲がりフェスタ」が彦根仏壇事業協同組合を中心に開催されました。その中で往時の彦根が映された8ミリフィルム上映会を2会場で実施しました。

①「旧秋口家洋館」大正5年(1916)年に建てられた歯科医院。施主が、地元の大工職人を神戸の異人館へ連れて行き、その様式をまねて建てられた。2013年秋から、市民らが解体、現在の地に移築し保存へと取り組む。階段の手すりや廊下がしっかりと光り、年月を重ねてきたことを感じさせる建物内で8ミリフィルム映像をプロジェクターで上映。

②「井上仏壇店」シンプルな仏壇か

ら豪華な仏壇まで、多様な仏具が並ぶ一階店内奥では仏壇の組み立てを公開。二階会場でプロジェクター、一部8ミリ映写機を使ったフィルムを上映。

『彦根でも曳山祭りを伝統とかではなく、人に喜んでもらうためにやっていった時があった』『マルビシ百貨店のスター食堂へ食べに行った。屋上にジェットコースターがあった』『平和堂ができるときに壊さはったな』『松原水泳場で少林寺拳法の映画撮影をしたときの映像です』

2会場とも彦根の移り変わりが映像と来場者の記憶から明らかに、町の歴史を初めて知った驚き、目にした風景との再会を懐かしむなど様々な声が飛び交いました。七曲がりフェスタという大きなイベントの中で開催し、多くの来場者に来ていただいた、貴重な機会となりました。



『戦前・戦後の銀座風景』

1956年撮影／22分
撮影・編集・所蔵：野村善一さん

戦前・戦後の彦根市銀座商店街の風景を写真と映像で編集した作品。撮影は銀座商店街にて文具店を営んでいた野村善一さん。前半は写真スライドショー。昭和5年野村紙店の初荷。昭和8年マルビシ百貨店竣工。昭和12年彦根市制施行祝賀パレード、えびす講売り出し、昭和15年土橋町防空演習毒ガス訓練、従業員軍役に応召。戦後、昭和24年彦根観光博覧会、昭和25年第一回商工まつり、二七の市。後半は昭和31年の銀座商店街の諸活動・諸行事の8ミリフィルム映像記録(子ども歌舞伎・広告カーニバル・えびす講大売り出し等)が収録されています。



『ボーイスカウト彦根第1隊がパレード、大國旗を多景島に掲揚』

1957年撮影／6分51秒
撮影・編集・所蔵：野村善一さん

京都在住の方より彦根市へ寄贈された百八畳敷の大日章旗を琵琶湖の霊島多景島に掲げる映像記録です。昭和32年5月3日、彦根駅から護国神社へボーイスカウト彦根第1隊が旗を持ち彦根駅前大通りパレードにご奉仕。翌4日「平安丸」に乗り、多景島へ渡り、市長はじめ名士が列席する中、掲揚式が行われる様子が記録されています。BGMあり。



『彦根百貨卸センター建設の記録』

1968年制作／27分49秒
撮影・製作：ヤマノ商争(株)、野村善一さん
所蔵：野村善一さん

昭和42〜43年にかけて彦根百貨卸センターが建設される過程を記録した8ミリフィルム映像です。敷地造成工事、地鎮祭、建築工事入札の様子、彦根市長を招いた起工式、工事の様子、商品の移動、竣工、滋賀県知事を招いたお披露目祝賀会、お得意様向けのお披露目見本市がまとめられ記録されています。



『多賀神社 原口参詣道 石燈籠再建の記録』

1974年制作／4分30秒
撮影・編集・所蔵：野村善一さん

旧中山道の原町から多賀大社への参詣道は「原道」と呼ばれ、その原(町)口にある多賀大社石燈籠の倒壊による再建の記録映像です。映像を撮影・編集した野村家が寄進した由緒があります。発願人野村善左衛門、寄進人野村善七、建立は慶応3年2月。昭和49年1月に倒壊したため、5月に野村善一さんが再建した様子を8ミリフィルムに記録し、編集。石組みの土台から、石灯籠が修復される様子が記録されています。



『干拓前の松原内湖、鍋釜祭り他』

1933年撮影／49分32秒

所蔵：藤田武史さん

0:00 神社での神事と奉納の能の舞い。8:56 着物を着たお母さんと男の子と幼女児が乳母車でお散歩をしている様子。10:15 干拓される前の松原内湖。(1944年〜49年に干拓) フェリー「大正丸」やボートで遊覧を楽しむ人々や競技用ボートの練習など様々な船が内湖を行きかう風景。12:52 タイトル「昭和8年5月筑摩神社 鍋釜祭り」 湖岸の「磯崎神社」での鍋釜祭りのお練り、神輿渡御の様子。紋付袴やお稚児さんに続き、鍋釜をかぶった子らの行列が渡る様子が記録されています。サイレント映像。



『マルビシ百貨店建設の記録』

1933年撮影／12分54秒

所蔵：藤田武史さん

彦根市銀座町の土橋商店街(現在の銀座商店街)に現存した「マルビシ百貨店」の建物ができるまでを記録した8ミリフィルム。昭和8年3月22日に行われた地鎮祭をはじめ、基礎やコンクリートを打つ作業の様子。昭和8年7月10日の上棟式。神事後の会食の様子。開店時の披露宴・余興の様子が1本にまとめられています。映像にはタイトル文字が編集され、周到なる設計により工事は日一日と進められてゆく。工事中日夜寝食を忘れて監督する宮本社長など解説が入る。屋上から俯瞰する当時の風景が貴重。サイレント映像。



『マルビシ祭』

1933年撮影／19分24秒

所蔵：藤田武史さん

彦根市銀座町の土橋商店街(現在の銀座商店街)で開催されたマルビシ百貨店主催の「マルビシ祭」の様子。様々な手作りの山車が連なり町内をパレード。どの山車も当時の商品を模したものでとてもユニークで魅力的で面白く、当時の熱気が伝わります。武者行列もあり、観覧する子供達や市中的の人々の服装にも当時の様子を見ることができます。サイレント映像。



『彦根下後三条子供会第一回ミニ運動会』

1980年撮影／42分

製作・編集・立木英雄さん (TATEN FILM)

昭和55年5月25日金亀多目的広場にて開催された彦根市下後三条子供会の第一回ミニ運動会の記録カラー映像です。子どもたちが多かった時代の元気な地域の運動会の様子です。各競技ごとに映像がまとめられ編集されています。障害物競走、100m競走、ゴルフレース、ボール運び、二人三脚、ムカデ競走、タル転がし、リレー。主催／後三条町子供会。後援／後三条町内会。音楽協力：ヤマモト楽器。音声あり。



『彦根城冬景色』

1970年撮影／3分20秒
撮影・所蔵：渡邊弘俊さん

雪化粧した彦根城を冬の晴れ間に捉えた映像。屋根瓦、白壁と屋根雪のコントラストがとても美しい。二番目の娘さん（現在50代）と一緒に彦根城へ行った際の映像でじつくりと彦根城、お堀を映した後に雪の中を走る娘さんの様子が収められ、あいだに標高の高い所から彦根の町を捉えた部分もあります。会場から「お堀が釣り堀になっている所には魚釣りが好きな人がずっと並んでいた。」「私はフィルムの値段が高いので、彦根城などの風景ではなく、家族の顔しか映せなかった。」との声が上がりました。サイレント映像。



『少林寺拳法』

1975年頃撮影／3分
撮影・所蔵：渡邊弘俊さん

友人が制作している8ミリフィルム映画撮影の一環で撮影。二人の男性が彦根市の松原海水浴場で少林寺拳法の演武に取り組む。ジャンプの足蹴り、棒を使った演武など、カットを替えながら何パターンも演じる。サイレント映像。



『松原水泳場、オートバイ、総おどり、花火』

1972年頃撮影／11分
撮影・所蔵：渡邊弘俊さん

0：00 松原水泳場で浮き輪やボートで遊ぶ家族や多くの水泳客の映像。1：25 広場で男性が嬉しそうな表情でオートバイに乗る様子。2：23 吹流しや山車など七夕飾りで豪華に装飾された商店街の昼の様子とその中を大勢の男女が踊る夜の様子。彦根ばやしは、井伊直弼による日本開国一〇〇周年を記念して昭和35年（1960）に作られ、彦根ばやし総おどり大会は、江戸時代からの歴史を持つ七夕祭や大花火大会、ひこね万灯流し等とともに彦根を代表する夏まつりの一つのこと。8：20 花火大会の様子。カラ、サイレント映像。



『カレーライス 野外パーティー』

1973年頃制作／12分25秒
所蔵：宮田法子さん

彦根市大藪町の市立児童館（通称：大藪児童館）で安清町子供会の夏のカレーパーティーの様子。「外の炊事場で大らかに準備しています。イベントごともしもなく、子どもたちにとっては、このようにみんなでお出かけをして、楽しく過ごす時間はとても貴重なものでした。」（宮田さん）湖岸近くの会場で楽しげに調理する大人、カレーとスイカを食べた後、川を飛び越えられるかを競い合う男の子、シーソーなどで遊ぶおかつば頭の女の子、大人女性性は柄物のワンピースの着用が多い。タイトル画面あり、サイレント映像。



『寺 高祖日蓮大菩薩七百遠忌法要』

1973年撮影／27分34秒
所蔵：中江達治さん

近江八幡市馬淵町の具足山妙感寺にて、昭和48年4月14日～16日にて催された高祖日蓮大菩薩七百遠忌法要を記録した8ミリフィルム映像です。妙感寺のある若倉山からは良質の石が産出されることで、庭園も巨石が多く、石組みに特徴があり、滋賀県指定の名勝に選ばれています。地域の檀家が受付をする様子や、法要、たくさんのお稚児さんの姿から盛大な遠忌が行われたことがわかります。サイレント映像。



『千代神社のお祭り』

1970年頃制作／約8分
所蔵：宮田法子さん

昭和40年前半の頃、彦根市京町の千代神社の春祭りでの稚児行列の様子です。きれいな着物を着て化粧をし、お姫様のような冠をかぶった行列で、とても嬉しかったのを記憶しております。父が行列に付き添っているときは、母が撮影していたようです。今は亡き懐かしい方々も映っている様子に庶民が撮ったフィルムの貴重さがうかがえます。(宮田法子)



『松茸狩り』

1960年撮影／約23分
所蔵：喜多充さん

昭和35年に多賀町にて撮影された映像です。京都からのお客さんを松茸でもてなした様子。撮影はお客さんが撮られ、「都会の人が見た田舎という構図」となっています。犬上川の橋が大雨によって陥落し、その上を木材を乗せた荷馬車を通る様子、当時の彦根城のお堀の様子や柿採りの風景を知ることができます。また、多賀大社や河内の風穴に観光にいった様子が記録されています。



『能登川共盛会毎月8日ひつくり市、江州音頭』

1970年頃制作／19分
撮影：個人
所蔵：東近江市能登川博物館

滋賀県下のトップを切つて毎年7月1日に開催されていた江州音頭「納涼大踊り会」の昭和40年代の記録。能登川駅前にある「能登川共盛会」が主催する「毎月8日ひつくり市」や、町内を街宣車で走る様子、能登川南小学校のグラウンドで開催された「納涼大踊り会」当日の準備風景、江州音頭が記録されています。



『伊庭坂下し祭り』

1970年頃制作／36分
撮影：個人
所蔵：東近江市能登川博物館

毎年5月に東近江市伊庭町で実施されている「伊庭坂下し祭り」は、800年以上も続くお祭りです。近江の奇祭と呼ばれ、三基の神輿を氏子の若衆が引きずり降ろす迫力溢れる神事として、滋賀県選択無形文化財に指定されています。この映像は、昭和40年代に記録として作成された8ミリフィルムで、祭りの準備から当日の神事の状況をナレーション入りで記録されています。

8ミリフィルム発掘プロジェクト

8

滋賀県内で撮影された昭和30～50年代の

ミリフィルムを探しています！

みなさんのご家庭に8ミリフィルムは眠っていませんか？

8ミリフィルムを上映するまで

1. おうみ映像ラボまでお問い合わせ。
映像の内容がわからなくても、大丈夫です。
お気軽にお問い合わせください！
2. ご提供いただく8ミリフィルムを試写する。
3. ご承諾いただいた方のみ、
みんなで寄り合ってみる上映会で鑑賞します。



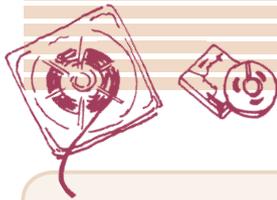
みつけたー！



まずは、ご自宅などで試写をします



上映会で地域で鑑賞会！盛り上がります！



【8ミリフィルム発掘プロジェクト】

2015年度からはじまった「8ミリフィルム発掘プロジェクト」。高度経済成長期と重なる8ミリフィルムが撮られた暮らしの変革期に滋賀の家族の暮らしはどのようなものだったのか。8ミリの映像に呼び起こされる思い出と、その背景に映りこむ時代の風景を読み解きたいと、スタートしました。情報を募り、信楽、高島、能登川、彦根などの映像と出会うことができました。昨年度は8ミリ映像を多く所蔵している能登川博物館とつながり、共催での上映会を開催。このことが今年度の老人福祉施設での上映会につながりました。また、この活動を知り、ご自宅で見つけていた映写機や貴重な8ミリカメラを寄贈いただき、彦根・七曲がりフェスタでの上映会を行うことができました。

【8ミリ出張上映会】

【おうみ映像ラボ 老人福祉施設】

日 2016年7月7日（木）

会場 いずみ介護サービスおかわ（東近江市）

施設が立地している地域の1970年代の祭りや生活を映した8ミリフィルム映像を上映。利用者の若かりし頃の映像を、まだ生れていなかった職員さんと見たり、地域の博物館よりお借りした『回想法セット』の生活道具を手にしたことで、普段とは違う交流が生まれました。



【おうみ映像ラボ in BIWAKO「エンナーレ」】

日 2016年9月17日（土）～11月6日（日）

会場 BIWAKO「エンナーレ」（近江八幡市）

滋賀県近江八幡市の旧市街地に残る町家や元造り酒屋の建物と現代アートを共存させる祭典『BIWAKOビエンナーレ（Biwako Biennale）』会期中、発掘した8ミリフィルム映像を上映しました。

ホームページ

<http://biwakobiennale.jp/>



【彦根市制施行80周年記念式典】

日 2017年2月11日（土）

会場 ひこね文化プラザ（彦根市）

彦根市制施行80周年、高松市・彦根市姉妹都市提携50周年記念式典にて、七曲がりフェスタで上映した8ミリフィルム映像が再編集され、会場内にて上映予定でしたが、大雪が予想されるために式典中止となりました。

— 東海道五十三次・水口宿 みなくち — 甦る水口細工と春を呼ぶ水口噺子



永井晃子さんの解説



日 2016年11月6日(日)
 会場 甲賀市水口歴史民俗資料館・
 水口城資料館・水口中央公民館

ナビゲーター

永井晃子さん(水口歴史民俗資料館学芸員)
 水口細工復興研究会のみなさん

上映作品

・『水口噺子 曳山を囃し、人を囃し、町を囃す』(32分)

制作 甲賀伝統文化活性化実行委員会
 ・『水口細工 水口細工復興研究会の1年の活動記録』(13分14秒)
 制作 あいコムこうか

スケジュール

- 09:30 甲賀市水口歴史民俗資料館集合
 あいさつ
- 09:40 「水口細工」解説、映像上映
 資料館見学・展示解説
- 11:00 昼食「甲賀のお弁当」
 (水口城資料館)、自由見学
 (甲賀市産のコシヒカリとひのひかりのブレンドごはん、湖南市産下田なすの漬物、水口産羽重餅、水口町産イチジクのワイン煮、厚焼き卵、魚、永源寺舞茸の天ぷら、甲南町産杉谷とうがらし、永源寺町の赤こんにゃく、カボチャ高野豆腐の煮しめ、近江八幡産のえび豆、水口町産ひょうたんの酢味噌和え)
- 13:10 水口細工復興研究会の活動見学・
 お話(水口中央公民館)
- 14:30 永井さんと歩く水口宿
 藤栄神社・水口教会・大徳寺
 ・水口神社など
- 15:45 解散

水口宿の土産物として人気を博した「水口細工」は、明治6年(1873)ウイン万博への出展を機に欧米向け輸出品となり、昭和天皇即位大嘗祭や昭和28年(1953)伊勢神宮式年遷宮へも献納されます。しかし、昭和40年代、その製作技法は伝承されることがなく幻のものに。そのため、平成12年(2000)に結成された「水口細工復興研究会」の活動は文献の調査や職人の遺族らへの聞き取りなど、材料を確認するところから始まり、すべての材料を特定するのに9年が必要でした。

今回は、まず、「甲賀市水口歴史民俗資料館」にて、同館学芸員の永井さんから「水口細工」の概要をお聞きしたあと、水口祭の勇壮闊達な囃子「水口噺子」の記録映像と「水口細工復興研究会」の1年間の活動記録を鑑賞。館内見学では、展示されている緻密な作品に驚きの声がありました。午後は「水口城資料館」にて甲賀の特製弁当を食べながら、映像を振り返り。資料館見学後、水口中央公民館で活動中の水口細工復興研究会のみなさんのもとにお邪魔して、実際の作業風景を拝見しつつ、材料の確保や制作のご苦労などお聞きしました。その後は、永井さんの案内で、宿場町のおもかげが残る水口宿を散策しました。



『水口細工
水口細工復興研究会の
1年の活動記録』

2016年制作 / 13分14秒
制作…あいコムこうか

『水口囃子 曳山を囃し、
人を囃し、町を囃す』

2015年制作 / 32分
制作…甲賀伝統文化活性化実行委
員会

※映像の写真ではありません。

水口細工の隆盛の歴史、また、水口細工復興研究会の1年間の活動を通じて、材料であるアオツツラフジやクスなどの採取・加工の様子などを紹介。画像からでも、水口細工の繊細な技が窺えます。

また、研究会のみなさんによる地元の高校生へのストラップ作りの指導や教室でのインタビュなど、「水口が誇る伝統工芸を次世代に残したい」と復活復興に懸ける思いが伝わってきます。

毎年4月20日に行われる水口祭で演奏される勇壮闊達な『水口囃子』の記録。江戸中期の記録が残る水口囃子は6mある曳山の上で演奏され、巡行の際に演奏される「バカバヤシ」、注意喚起を促す、ゆったりとした「オオマ（大廻・大馬）」、盛り上げの曲「ヤタイ（屋台・八妙）」、神前奉納曲の「ガク（額）」と、それぞれの場面で異なる曲が演奏されます。水口囃子の魅力はなんととっても大太鼓と小太鼓、鉦と篠笛の掛け合いが生み出す軽妙なりズム。全国にも多くのファンがいて、幼い頃から慣れ親しんだ地域の人とともに祭りを盛り上げています。



永井さんと 歩く水口

童文学の創始者。水口歴史民俗資料館に業績を紹介する記念室がある。

藤八幡宮

建立については江戸幕府の旗本美濃部氏による由緒と京都より藤細工をもたらしただという一族による由緒があるが、社号から水口細工に関係する神社であろう。



水口教会

水口中部コミュニティセンター

施設内には水口祭で巡行する曳山を展示。「二層露天四輪構造の飾り山」という構造で複雑な木の組み合わせや精巧な彫刻を間近で見学できる。

祭礼に曳山が登場したのは享保20年(1735)のこととで、最盛期にはその数30基あまりに達したといわれている。

藤八幡宮



藤栄神社

水口藩祖・加藤嘉明を祀る神社で文政12年(1829)美濃部天満宮(現綾野天満宮)の旧地の一角に創建。社号標石はもともと在家村東端に建っていた水口藩領界標石を転用したもので、巖谷一六の書。一六は著名な書家、その子小波は日本児

藤栄神社



水口教会

昭和5年(1930)竣工。様式的な教会建築ではなく、アメリカン・コロンリアルスタイルの住宅建築を基礎としたヴォーリス独特のスタイル。平成12年木造平屋建ての会堂(礼拝堂)と長手積煉瓦造の門柱が国登録有形文化財に選定。



水口中部コミュニティセンター

山倉(蔵)

曳山はその構造上解体せずに普段から組み上がったままで、各町内に建てられている「山倉(蔵)」に収納



山倉(蔵)

されている。現在、16基が曳山保有町で維持管理され、そのうちの1基が毎年交替で甲賀市水口歴史民俗資料館に展示される。

大徳寺

もと林慶寺と称する禅宗寺院であったが、天正16年(1588)水口岡山城主中村一氏が菩提所に定め、新たに堂舎を建立し浄慶寺と号し、相模国小田原大蓮寺より勧誓を招請して開山したという。勧誓は、徳川家康の家臣・本多忠勝の伯父にあたり、家康とも字問を通じ親交があった。家康は関ヶ原合戦後の上洛途

大徳寺



水口神社

式内社に比定される古社。境内の石灯笼は南北朝時代の康永元年(1342)銘をもち市指定文化財。

水口祭の本日には曳山が水口囃子とともに境内へ入る。大太鼓、小太鼓、鉦、篠笛による緩急の変化豊かで勇壮な調べは江戸の「神田ばやし」の流れをくむものと言われる。



水口神社



【上映会場・映像撮影地 マップ】

- 映像撮影地
- 上映会場





お問い合わせ

おうみ映像ラボ

☎ 080-9603-5680

✉ omieizo_lab@yahoo.co.jp

おうみ映像ラボの情報はコチラから！

facebook ----->
www.facebook.com/omieizo.lab

Twitter
https://twitter.com/omieizo_lab



文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan



2017年2月20日発行
企画・制作・発行一おうみ映像ラボ
組版一 中川末子 (よろずでさいん)
写真撮影一 金東薫 おうみ映像ラボ
平成28年度 滋賀県「美の滋賀」創造事業
地域の元気創造・暮らしアート事業
平成28年度 文化庁 文化芸術による地域
活性化・国際発信推進事業

おうみ映像ラボ
since 2014
BOOK
vol.3 2016

中央公民館
大久保実香さん 井上昌一さん 柴田淳郎さん 馬場山往さん 三谷悠華さん 鈴木達也さん 中田洋子さん 永井晃子さん 長すゞ子さん
8ミリアーム・機材の提供者 /
野村善一さん 藤田武史さん 渡邊弘俊さん 中江建治さん 小門寅郎さん 宮田法子さん 喜多充さん 宇田安利さん
滋賀県立琵琶湖博物館 栗東歴史民俗博物館 東近江市能登川博物館 滋賀県農政水産部水産課 琵琶湖汽船株式会社 井上仏壇店 彦根仏壇事業協同組合 七曲がりフェスタボランティアアスタッフ 滋賀大学 BWAQOピエンナール
いずみ介護サービスおかわ 株式会社吉岡映像 甲賀市水口歴史民俗資料館 水口細工復興研究会 水口城資料館 水口中央公民館

ご協力いただいた皆さま (順不同)

